

「銀座ダイヤモンドシライシ」新 CM 公開のお知らせ

映画監督

行 定 勲が描く男性視点のプロポーズ

俳優

女優

三浦 貴大×土村 芳が出演

何気ない日常の中で起こる2人の輝くプロポーズの瞬間を切り取った映像美
行定監督「思い立ったらものすごいスピードで伝えたくなる、男心がにじみ出ています」

2018年5月28日(月)より全国にて公開

株式会社ニューアート・シーマ（本社：東京都中央区 代表取締役 白石 哲也）は、1994年、日本初のブライダルジュエリー専門店として創業した「銀座ダイヤモンドシライシ」の新テレビCM「彼は走っている」編を2018年5月28日（月）より全国にてオンエア一開始いたします。

本CMは、数々のヒット作を生み出している恋愛映画の名手、行定 勲さんが監督を務め、俳優の三浦 貴大さんと女優の土村 芳さんを起用。何気ない日常の中で起こる二人の輝くプロポーズの瞬間を切り取った映像は「卓越した演出力と映像センスで、役者の潜在力を最大限に引き出す」行定 勲監督の真骨頂。まるで短編映画を見ているかのようなCMとなっています。ダイヤモンドの輝きにこだわり続ける「銀座ダイヤモンドシライシ」のリングがふたりの永遠の愛の証として、映像美のなかに存在感を放ちます。

■ 「彼は走っている」編 概要

<本編>URL：15秒 <https://youtu.be/yUquheIYmPo>

30秒 <https://youtu.be/t3FFczrlKio>

<Web 限定 CM>URL：https://youtu.be/L_9vPNKCImA

<メイキング>URL：<https://youtu.be/Yh8qLUbaNZk>

<インタビュー>URL：行定監督 <https://youtu.be/cSrNu6pbf3k>

三浦貴大・土村 芳 <https://youtu.be/vVg7JkYWIvs>

<Web サイト>URL：http://www.diamond-shiraishi.jp/tvcm_saintglare.html

<放送地域>：全国（一部放送されない地域もございます。）

<CM 秒数>：15秒、30秒、180秒（Web 限定）

<監督・キャスト>行定 勲監督・三浦 貴大さん/土村 芳さん



<CMストーリー>：

同棲中の彼女にプロポーズを決意した男性は、帰宅途中のバスの中で、ポケットに入った指輪の箱を触りながら嬉しそうに微笑みます。早く渡したくて、バス停を降りた瞬間から、家に向かって全力で走ります。家に到着すると「おかえり」とキッチンから笑顔で迎える彼女の姿が。息を切らし、汗だくな彼の姿に「どうしたの？」と笑う彼女に、ダイヤモンドの指輪を差し出すと、彼女は「今日ってなんの日だっけ？」とうれし涙に目を輝かせます。フルバージョンでは、走っている途中、トランペットを練習するおじさんと子どもたちを通り過ぎていきます。このおじさんと子供たちの正体は・・・そして、プロポーズ後、ふと窓の外に視線をむけると、先ほど練習していたトランペットの音色は結婚を祝う曲に変わります。すべてを見届ける神様と天使が2人を祝福するために。それを見た2人は微笑み、幸せをかみ締めます。



■撮影エピソード

撮影は4月の下旬に、都内のアパートで、春らしい陽気のなか行われました。行定監督によるCM設定についての説明後、和やかに撮影がすすみました。土村さんが家に帰ってきた三浦さんに「おかえり」と微笑む姿に、三浦さんや監督含めスタッフ一同、思わず見とれてしまう場面も。監督のアドバイスを受けながら、お2人はプロポーズのこみ上げてくる喜びをきらきらとした瞳で表現し、初共演とは思えないほど、自然な「同棲中のカップル」を演じていました。

撮影終盤は三浦さんがひたすら走り続ける撮影。時に息を切らし、汗をながしながら、真剣なまなざしで取り組む姿が印象的でした。



■行定 勲監督インタビュー

Q. 今回の作品の意図やポイントは？

人って大切な人に何か贈り物をするときに「早く渡したい」って思うんですよね。慣れた人なら、買ってゆっくり、例えばレストランとかを予約してちゃんと渡せると思うんだけど。

慣れていないけれど、一生に一度の買い物をした男は、なぜだか走りたい。さりげなく渡したかったはずなのに、汗だくになって彼女の元に行く。そういう男心ってかわいいですよ。プロポーズを受けた彼女側もまさか汗だくで帰ってきてダイヤモンドを渡されるなんて思っていないだろうし。日常の中のサプライズが、あとで振り返ると微笑ましくなると思います。そういう男心とダイヤモンドって一見かけ離れているイメージがあると思うんですけど、だからこそ、ダイヤモンドの輝きって深くなると思っています。

Q 今回のキャスティングについて

企画を考えたときに真っ先に顔が浮かんだのが三浦君で。非常に自然体で、ちょっと不器用という男性のかわいらしさを重視しました。思ったとおりの人で、演技に対してもとても誠実な方でした。

土村さんはかわいらしさと、表には見せない我慢強さが感じられました。派手ではないんだけど、ダイヤモンドをつけたら輝きが増すようなイメージがありました。「おかえり」という笑顔がすべてを象徴していましたね。

Q CM と映画の違いは？

映画では小道具が主役になることはないですが、CMだと意識を変えて、小道具の方が主役になりえるんですよね。でも私の映画は小道具がものすごくいい役割をすることが多いんですよ。ダイヤモンドは2人の「絆の象徴」になる。その輝きが観る人の感情に訴えてくると映ればいいと思っています。突然ドラマが始まったかのような、助走があって、そこから最後にダイヤモンドのCMなんだ、と分かるような印象を持ってもらえればと思っています。

■三浦さん・土村さんインタビュー

Q. 初の行定監督作品に出演した感想

三浦さん：がちり指導を受けたわけではなく自由にやらせていただきました。コンテから感じる2人の空気感を大事にしていったので、言葉を交わさずとも監督との意思の疎通ができていたと思います。

土村さん：CMは秒数がきまっているので、合わせるのが大変でしたけど、そこを細かく指示をいただいたので勉強になりました。

Q 理想のプロポーズをお聞かせください。

三浦さん：1ヶ月くらい前からそわそわしていて、当日にはバレている、みたいなオチだと思うので。なるべく今回のCMみたいな、思いつきで買って走ってきて渡す、みたいな方がいいかもしれません。

土村さん：撮影中も話題になってたんですけど、私の場合は外とか人目のある場所でされると恥ずかしくて、ちゃんと考えてあげられなそうなので、今回みたいな2人だけの空間の中で言われた方が素直に喜べるんじゃないかなと思います。

■行定勲監督プロフィール

行定 勲 (ゆきさだ いさお)



1968年熊本県出身。長篇第1作「ひまわり」(2000年)が第五回釜山国際映画祭にて国際批評家連盟賞を受賞し、演出力のある新鋭として期待を集める。「GO」(2001年)では日本アカデミー監督賞をはじめ国内外の50の賞に輝く。その後「贅沢な骨」(2001年)「ロックンロールマシン」(2002年)を発表、2004年には「きょうのできごと」そして、大ヒットした「世界の中心で、愛をさけぶ」が、観客動員620万人、興行収入85億円を記録する。

2005年には吉永小百合主演の大作「北の零年」、三島由紀夫の小説の映画化「春の雪」が公開された。2010年には「今度は愛妻家」が公開され、芥川賞作家吉田修一原作「パレード」(2010年)にてベルリン国際映画祭パノラマ部門国際批評家連盟賞を受賞するなど海外での高い評価を得る。その後、「つやのよる ある愛に関わった、女たちの物語」(2013年)、「円卓 こっこ、ひと夏のイマジン」(2014年)、「真夜中の五分前」(2014年)、「ピンクとグレー」(2016年)、「ナラタージュ」(2017年)を発表する。2018年2月、岡崎京子原作コミックを映画化した「リバーズ・エッジ」が第68回ベルリン国際映画祭パノラマ部門のオープニング作品に選ばれ、国際批評家連盟賞を受賞する。

■出演者プロフィール

三浦 貴大 (みうら たかひろ)



1985年生。東京都出身。2010年映画『RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語』でデビュー。

同作で第34回日本アカデミー賞新人俳優賞、第35回報知映画賞新人賞を受賞。近年の主な作品に映画『サムライ』(2015)、『進撃の巨人』シリーズ(2015)、『怒り』(2016)、『マンガ肉と僕』(2016)、『追憶』(2017)、『ばあちゃんロード』(2018)、『四月の永い夢』(2018)。ドラマ『探偵の探偵』(2015)、『銭形警部』(2017)、『リバーズ』(2017)等。公開待機作に『3D彼女 リアルガール』(9月14日公開)、『栞』(秋公開)等がある。

土村 芳 (つちむら かほ)



1990年生。岩手県出身。2016年NHK連続テレビ小説『べっぴんさん』出演。2017年NHK-BSプレミアム『GO!GO!フィルムタウン』でドラマ初主演を務める。三浦大輔監督『何者』(2016年)、YTV-NTV『恋がヘタでも生きてます』(2017年)レギュラー、瀧本智行監督『去年の冬、きみと別れ』(2018年)、などCM、映画、ドラマと幅広く活躍。TBS 7月期『この世界の片隅に』レギュラー出演予定。

■銀座ダイヤモンドシライシ」について

1994年、日本初のブライダルジュエリー専門店として創業。これまでの成約数は45万組にのぼります。銀座中央通りに本店を構え、2018年5月現在、日本国内40店舗、海外2店舗を構える日本最大級のブライダルジュエリーブランドです。従来にはなかったサロンタイプのゆったりとした店内が特徴。

「すべての花嫁にダイヤモンドを」という想いで、最高品質のダイヤモンドをお届けします。



GINZA
DIAMOND SHIRAIISHI

ダイヤモンドの一大マーケットであるイスラエルに現地法人を創設し、数十年以上のキャリアを誇るダイヤモンドのバイヤーが常駐。その厳しい選択眼で、世界中から集まる研磨業者との直接取引によりトップクラスのダイヤモンドのみを安定的に確保し、適正な価格で提供しています。

そこで選び抜かれたダイヤモンドは、ダイヤモンドの品質基準として知られる「4C」だけでなく、美しいと感ずるのに必要な「輝き」が最も大切な価値であると考え、より美しい輝きを放つ高品質なダイヤモンドです。

拡大顕微鏡でわずかに認められる研磨痕（磨き残し）さえ許されぬ、パーフェクトな輝きを放ちます。

ブライダルリング専門店のパイオニアとして、またダイヤモンドのプロフェッショナルとして既存の製品を販売するのではなく、ダイヤモンドを選び、気に入ったリングのデザインと組み合わせることができるのは、「銀座ダイヤモンドシライシ」だからこそ。

常時5,000ピース以上のダイヤモンドと数百種類のリングのデザインをご用意し、「世界にひとつの、自分だけのリングが欲しい」そんな多くの花嫁たちの声におこたえます。

婚約指輪（エンゲージリング）と結婚指輪（マリッジリング）を重ねてつけるシーンも想定し、ふたつのリングが寄り添うようにデザインされた「セットリング」も業界の先駆的な考えとなっています。なめらかな着用感、サイドからみた美しさも細やかな手仕事がなすさらなる特徴です。

また、永久的に保証するアフターサービスも、一生をともにするリングに携わるからこそ。

これらパイオニアとしての業績はすべて、「ふたりに寄り添い 幸せをかたちにしたい」私たちのそんな想いの結晶であり、願いそのものなのです。これまでも、そしてこれからも、ずっと。銀座ダイヤモンドシライシは、ふたりの人生に寄り添って歩いていくブランドであり続けます。

「銀座ダイヤモンドシライシ」サイト：<https://www.diamond-shiraishi.jp/>

■CM映像使用リング

セントグレア (Saint glare)

“聖なる輝き”の意味をもつセントグレアは、銀座ダイヤモンドシライシを代表するエンゲージリング。白い光が差す教会の扉が開き、ヴァージンロードを歩きだした時、たくさんの光が教会の窓から差し込む情景を表現。

エンゲージリングの王道、憧れのソリテールで婚約指輪とダイヤモンドがふたりにもたらす価値、プロポーズの価値を訴えかけるCMにぴったりのリングです。

ダイヤモンドを覆う部分を極限まで減らし、空間を大きくもたせることで、光を多く取り込み最高品質のダイヤモンドの輝きをさらに引きだします。

ダイヤモンドが浮かび上がってみえるよう計算されたセッティング、ダイヤモンドに向かって細くなるアーム、留めるツメを極限まで小さくし繊細な印象に。



素材：プラチナ×ダイヤモンド Price：¥200,000～ *お選びになるダイヤモンドによって価格が変わります。